

Special Essay

直感と本

先進漢方医学講座 恵紙 英昭

日常生活のあらゆる情報収集において電子媒体の恩恵を受けていることが現実であるが、私はどうしても紙を求めてしまう。自分の名字に紙がついていることが理由ではないが、ダウンロードした小説などを読もうとしてもなかなか続かず、つい本に手を出してしまう。以前は歴代の直木賞や芥川賞受賞作品などを読んでいた時もあったが、ある時期から本の購入方法を変えてみた。本屋でタイトルを見てピンとくれば手にとり、最初の数ページ、あとがき、著者紹介などを読んでみて、興味が持てそうであれば購入するようにした。その方法をやりはじめた頃は、失敗を重ねていたが、最近では直感で選んだ本が、程よく心に響く内容である確率が徐々に上がってきたような気がする。そのような直感を楽しんでいるが、それに加えて紙の温かさを感じている。自然の生き物である木から作られた紙であり、その紙を自分の指が無意識に触っている、また眠りについてしまった時には胸やお腹の上で温かくなり、たまに自分の指が葉になっていたりする。さらに紙の質感や匂いなども感じている。とくに漢方の勉強になると、EBMも大切であるが古典にも目を通すこととなり、古書を手にとることも多い。紙の質感や匂いなどを感じ、著者の時代背景をイメージし、先人がどのような想いで苦勞して執筆したのかを学ぶことになる。想像する楽しさも味わえる。

医療の多くがマニュアル化されてしまい、想像力や直感を養う機会が少なくなりつつある時代なので、図書館や本屋に出向き、いろんな本を直感で選んで読んでみるなど、直感と想像力を生かして「感じとる」精神活動があった方が仕事にも良い影響を及ぼし、さらに人間的にも成長するのではないかと思う今日この頃である。

